

機関リポジトリを知ろう

高木和子

千葉大学附属図書館ライブラリー・イノベーション・センターリサーチフェロー

現在、世界中の大学や研究機関において、機関リポジトリ構築の意欲はますます高まりを見せている。機関リポジトリの考え方自体は以前からあったものだが、その言葉が広く使われるようになるきっかけが作られたのは、2002年であるとされる。その後の数年の間に機関リポジトリは広く世の中に受け入れられるようになった。

現在世界中にいくつの機関リポジトリがあるのか、正確な数字を挙げることは不可能であるが、機関リポジトリのリストである ROAR (Registry of Open Access Repositories) には全部で 677 のリポジトリが登録されている。その内訳は、米国 184、英国 70、ドイツ 63、ブラジル 42、カナダ 32...と続く。

では、機関リポジトリは何故必要なのであろうか。一言で言えば、利益をもたらすからである。大学側からすれば、社会に対する大学のアカウンタビリティを高めるといいう大きなメリットがあるだけでなく、研究成果が一元的に管理され、半永久的に保存されることにより、全体としての経費は削減される。利用者にとっては、資料が無料で利用できるという利益がある。

機関リポジトリの特性は 1) コンテンツは学術資料であること、2) コミュニティ主導であること、3) セルフアーカイビングが基本であること、4) コンテンツは永続的に保存されること、そして 5) オープンアクセスであること、が挙げられる。これらの特性を実現化するためには、1) 資料登録機能、2) メタデータ付与機能、3) アクセスコントロール機能、4) 検索機能、5) 配信機能、6) 保存機能、という 6 つ基本的な機能が必要である。

機関リポジトリを構築する際に、解決しなければならない問題をいくつか取り挙げる。1) まず、誰が（どこが）主体となるべきかを決定すること。2) コンテンツ作成者（教員、研究者、学生、etc）への参加呼びかけを行うこと。その際には具体的にどのようなメリットがあるかを明確に説明することが大切である。そして、3) リポジトリに登録すべきコレクション・資料のタイプを決定すること。4) 論文の版管理を行うこと。5) 著作権などの権利問題を解決すること、などがある。

機関リポジトリのソフトウェアは無料、有料ともさまざまなものがある。それらの特性を良く見極め、将来的な見通しも考慮して自分の大学にとって最も適切なソフトウェアを決定することが大切であろう。

日本では、去年 2 月に千葉大学が CURATOR の運用を開始した。5 月 19 日現在、機関リポジトリを公開運用している大学は少なくとも 9 大学、試験運用中が 4 大学存在する。

インターネット学術情報インデックス (IRI) の 構築・運用とネットワーク情報資源

小山憲司

東京大学情報基盤センターデジタル・ライブラリ係

1999 年 3 月に本学でインターネット学術情報インデックス (Index to Resources on Internet、http://resource.lib.u-tokyo.ac.jp/iri/url_search.cgi、以下 IRI) を公開してから、今年で 8 年目を迎えた。IRI とは、インターネット上の学術情報源を蓄積し、検索できるようにした、メタデータ・データベースである。

IRI の構築は、図書館における情報管理プロセスに類似している。すなわち、世の中にあるさまざまな情報の中から、必要と思われる情報を収集し、それを整理・加工 (組織化) し、蓄積・管理 (メンテナンス) し、検索・利用に供するというものである。こうしたプロセスの一つひとつを経て、IRI を運営しているのであるが、その情報がいわゆる既存の図書館資料と異なり、インターネット上の情報源であるため、これら特有のさまざまな問題や課題が発生している。

本発表では、IRI の構築と運営について紹介し、これまで本学が取り組んできた経緯や経験を踏まえながら、ネットワーク情報資源そのものの性質やそれを取り扱う上での課題等について検討する。ここで発表する主な内容は次のとおりである。

1 . IRI の概要

IRI 作成の経緯、システムの概要、登録の対象およびその基準などを中心に、IRI の概要を説明する。

2 . IRI における情報管理プロセス

IRI を構築・運営するにあたって、どのように学術情報源を収集、組織化し、メンテナンスしているのかについて、紹介する。

3 . IRI とネットワーク情報資源

2 を踏まえながら、収集、組織化、およびメンテナンスのそれぞれの観点からみた、ネットワーク情報資源を取り扱う際の課題、問題点について検討する。

参考文献等

- 1) 大川直子ほか. 東京大学附属図書館におけるインターネット学術情報インデックスの作成について. 大学図書館研究 . No. 56, 1999.9, p.12-22.
- 2) 梶谷泰文. ゲートウェイサービスのためのメタデータ: 「インターネット学術情報インデックス」作成の事例報告. 電子資料の組織化: 日本目録規則 (NCR) 1987 年版改訂版第 9 章改訂とメタデータ. 日本図書館協会, 2000.5, p.57-71.

PubMed を中心に

諏訪部直子

杏林大学医学図書館

1990年代にインターネットが普及して以来、多くの学術情報がネット上で公開されるようになりました。なかでも医学・生命科学分野に関わる世界中の人々に大きなインパクトを与えたのは、1997年6月にPubMedが無料公開されたことです。長年 Index Medicus や CD-ROM MEDLINE を購入し、オンラインサービスベンダーに検索料金を払うのが当たり前だった私たちにとって MEDLINE が無料で一般公開されるということは予想もしなかったことでした。

それから9年経過し、度重なる改良が加えられて便利になった PubMed は、もはや医師や研究者だけでなく、図書館の日常業務にもなくてはならない身近なツールとなりました。しかし思いついたキーワードを入ただけで簡単に文献検索ができる手軽なデータベースであるという反面、その検索ロジックを知らなければ思いがけない結果になることがあります。また、知っているサービス向上に生かせる機能がどんどん追加されています。

本コースでは、初歩的な検索をマスターしている方を対象に、PubMed の便利機能や最新情報、検索のコツをご紹介します。

[PubMed の便利な機能の例]

LinkOut

- ・自館で提供している電子ジャーナルへのフルテキストリンク
- ・自館で所蔵している雑誌の所蔵アイコン表示と所蔵情報へのリンク

MyNCBI

- ・検索式と検索結果の保存
- ・検索結果を好みのフィルターにかけ、タブにまとめて表示
- ・検索キーワードを検索結果表示にハイライト
- ・個人でも機関単位でも設定ができる

RSS

- ・登録した検索式を自動的に検索して結果を表示する